

平成 27 年度 追手門学院大手前中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する「人財」育成をすべての教育活動の根本とする。
また、すべての生徒が自己の成長と周りへの貢献を意識して、満足した学校生活を送り、希望の進路実現を果たせる学校づくりを進める。
そのために、
① 自ら学び、考え、他者と共に成長する生徒
② 未来を切り拓くたくましさ・高い志・品格を備えた生徒
を育成する。

2 中期的目標

1. 学校の社会的評価を高めるために、理念に即した教育を展開し、それを積極的に発信する。
 - (1) 本校教育を世に問い、社会的評価を高めるために、組織として、個人として取り組むマインドを醸成する。
 - (2) 教育の成果の検証を行い、成果発表の場と捉え、積極的に外部に発信していく姿勢を持つ。
 - (3) 学校の教育の取り組みを内外に発信する。
2. 個人として、また組織として教育力を向上させ、生徒満足度の向上につなげる。
 - (1) 学力伸長・進学実績の向上の課題を 2015 年度の目標に据え、生徒の満足度向上を図る。
 - (2) カウンセリングマインドに基づいた生徒指導の実践を継続的に推進する。
 - (3) 学習推進部の中に教員研修担当を置き、教員育成のための効果的な OJT の仕組みを作る。
3. 大学の入試改革を踏まえ、新しい組織によって新しい教育を展開する。
 - (1) 将来構想委員会を毎週定例で開催し、中・長期的な展望を持って教育の方向を決定する。
 - (2) 大学の入試改革の下でも確実に成果が出せるような教育環境を整備する。
 - (3) 総合学習を始めとした新しい教育の準備・実践のために組織的に取り組む。
4. 学院内での連携をさらに進め、教育力の向上につなげる。
 - (1) 大学教務課・入試課との連携会議を計画的に行い、追手門学院大学との共学面・進学面での連携を深める。
 - (2) 追手門学院小学校との教育方針・理念のつながりを意識し、本校の教育内容を整理して、教育面でのつながりを強化する。
 - (3) 茨木中・高との 70 周年事業に向けて定期的な交流・研修を検討し、相互の取り組みの改善・強化につなげる。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・担任指導と規律面においては、昨年度からの高評価を維持している。 ・学習面での満足度も昨年度よりさらに向上が見られた。 ・本校への入学満足度と行事での満足度も大きく向上した。</p> <p>○保護者 ・生徒と同じく、担任の指導や規範・礼法指導について特に満足度が高い。 ・セキュリティ面での満足度は高評価を維持。</p> <p>○教職員 ・教え方の工夫などの学習面での取り組みと規範・礼法教育での自己評価が昨年度に続いて高い。 ・総合学園としての長所に対する自己評価が大きく向上した。</p> <p>【分析】 ・今年度は、生徒・保護者の満足度は全般的に向上している。特に生徒の本校入学満足度と学校行事に対する満足度は大きく向上した。昨年度と同様、生徒に比べて保護者の評価が低い項目が一部見られるが、家庭連絡に関する項目の評価は高いので、HP等を活用した内部広報のあり方を検証し、学校の取り組みが保護者にもしっかりと伝わる工夫と方法の改善を継続的に行っていくことが必要である。</p>	<p>○学校の目指すところが明確になってきたことはいいことだ。 ⇒理念・教育方針をもとに、どういう教育でどういう力を付けるのかを意識して示してきたことを評価していただいてありがたいと伝えた。</p> <p>○HPでの記事更新が頻繁になって、学校の様子がわかって嬉しく思う。生徒募集の目的だけではなく、内部広報のツールとしてもさらに積極的に活用してもらいたい。写真もたくさん使って行事のことも伝えてほしい。また、両中高の交流も進んでいることに驚いたが、学院内での連携・交流についてももっと知らせてほしい。 ⇒かなり意識して取り組んだ結果であり、内部広報も意識している。行事や学院内での連携の報告も、充実させたいと伝えた。</p> <p>○学習についても手厚く指導をしてもらっていて、感謝している。しかし、学校での集まりに参加しにくい保護者の方には伝わりにくいので、HPやプリントなど、伝え方をさらに改善してもらいたい。 ⇒HPやメール配信の面での工夫を考えると回答する。</p> <p>○生徒の生活の様子が全体的に落ち着いていて喜んでいる。挨拶がしっかりできるし、服装もほとんどの生徒がきちりしている。 ⇒教員からの指導の徹底もあるが、上級生が手本となってくれていることが大きいと伝えた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 理念に即した教育と社会的評価の向上	<p>(1) 教員のマインド醸成</p> <p>(2) 理念に即した教育内容の継続的実践と成果の検証</p> <p>(3) 外部への発信</p>	<p>(1) 本校教育を社会に発信する、教員のマインド醸成 ア 時代を生きる力・獲得させたい力と教育内容を教員内に浸透させる。</p> <p>(2) 必要な教育の取り組みの実践と制度整備 ア 5つの教育の推進状況と生徒満足度の確認 イ 5つの教育を担当部署を通じて組織的に進める。</p> <p>(3) 本校教育を積極的に外部へ発信する。 ア HPでの発信の強化 イ 公開授業の計画・実施</p>	<p>(1) ア 学校案内の内容理解、全教員での中学・塾訪問</p> <p>(2) ア 主任会議の開催とアンケート調査 イ 担当部署からの進捗状況報告・取り組みの公開</p> <p>(3) ア 毎週の記事更新の回数 イ 公開授業の実施</p>	<p>(1) ・8つの力・5つの教育に対する理解が深まり、対外的にそれを発信しようとするマインドが高まった。 ・全教員で担当校を訪問できた。</p> <p>(2) ・主任会議は定例で毎週開催。 ・8つの力に関する生徒の満足度が高い評価を得た。 ・推進チームを作って取り組みを進めることができた。取り組み内容の公開ができた。</p> <p>(3) ・HPの記事更新担当者を置き、更新回数を増やした。 ・総合学習・日常の授業・ICT活用のテーマに沿って公開授業を実施できた。</p>
2 教育力向上の取り組み	<p>(1) 教員評価・学校評価・研修の三位一体の制度による教育力向上</p> <p>(2) 学びのシステム改善に組織的に取り組む</p> <p>(3) 新しい生徒指導のありかたを改善・実践</p>	<p>(1) 教員評価・学校評価・研修を通じて教育力＝学校力を向上させる ア 評価の目的・意義と有効な目標管理の方法を組織としてさらに浸透させる。 イ 中間点検の実施とアンケート評価に基づいて、短い期間でのPDCAサイクルを回す。教科研修の継続的实施。</p> <p>(2) 部署の役割・業務の見直し、取り組み方法の改善 ア 学習3部会での取り組みと教科主任会の会議内容の改善 イ 「質の高い学力」教育の内容を各教科で設定、実践。研究誌『はくる』での実践報告と優れた実践の共有。</p> <p>(3) 新しい生徒指導をさらに推進する。 ア カウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる取り組みを継続して組織的に実践・展開 イ 継続して研究を進め、優れた実践を共有する場を設定する。</p>	<p>(1) ア 主任会議・職員会議等での浸透、研修実施 イ 学期ごとのチェックと総括を実施、アンケート評価</p> <p>(2) ア 学習3部会の活性化 イ 学校評価アンケート満足度向上、研究誌『はくる』の発行</p> <p>(3) ア 学校評価アンケート イ 教員研修を実施、優れた実践発表の場を設定</p>	<p>(1) ・教員評価・学校評価の目的・意義について各種会議を通じてさらに浸透させることができた。 ・中間段階だけではなく、学期ごとにチェックと総括を行った。</p> <p>(2) ・進学指導部の独立。 ・学習3部会の役割確認と合同会議による教育推進の体制確認ができた。 ・『はくる』において5つの教育の実践状況について報告することができた。</p> <p>(3) ・担任指導に対する満足度は高評価を維持。 ・テーマに沿った書籍を教員に配付して研究を進めた。 ・生徒満足度の高いクラス担任の実践報告の場を設定した。</p>
3 学力向上・人間形成の取り組み	<p>(1) 全校生徒の学力伸長、学びの改善</p> <p>(2) 新しい学びの研究と実践</p> <p>(3) 学びを支えるコミュニケーション教育の実践</p>	<p>(1) 全校生徒の学力伸長 ア 教科・学習関係の分掌・学年が連携し、組織的に学力伸長に取り組む。 イ OJTによる授業力向上の取り組みを行う。</p> <p>(2) 新しい学びの研究を進め、方法を確立する。 ア 学びの基礎としての反復・定着の効果的な方法を生徒に伝え、実践させる。各教科授業での実践。 イ 新しい教育の内容に応じて、中学の総合学習の取り組みを一新する。</p> <p>(3) 学習生活の礎としての生徒指導・コミュニケーション教育の実践 ア 学習生活の基盤となる規範・礼法教育を強化。 イ 「ほめ言葉のシャワー」教育の実践を中学全体に広げる。</p>	<p>(1) ア 進学指導部主導の学力分析会の実施 イ 授業見学・授業コーチングの実施</p> <p>(2) ア 各教科で方法を確立、全体での共有化。 イ 新たな中学総合学習のシラバスに基づいた実践</p> <p>(3) 学校評価アンケート ア 全校集会の講話、「生徒指導便り」の発行、毎日の挨拶運動の継続実施 イ 外部講師を招いての研修、教育実践共有</p>	<p>(1) ・模試分析会の実施、会議での情報共有ができた。管理職・他学年の教員も参加した。 ・年間を通じて授業コーチによる授業改善の取り組みができた。教科リーダーの育成が課題である。</p> <p>(2) ・教科内での研究、優れた実践の共有化ができた。 ・新たな中学の総合学習のシラバスに基づいた実践を進め、成果発表会を開催できた。</p> <p>(3) ・年間を通じて実践できた。 ・「ほめ言葉のシャワー」は主に中学において研究を進め、実践し、職員会議で実践報告ができた。 ・規律面での学校評価の生徒満足度が高いレベルを維持。 ・テーマに関わる第一人者の方を招いての研修を実施できた。 ・中学各クラスで取り組めた。</p>

<p style="text-align: center;">4 一貫連携教育</p>	<p>(1) 大学との連携事業の継続的推進・改善</p> <p>(2) 追手門学院小学校との連携・交流を深める</p> <p>(3) 追手門学院中・高との連携・交流を深める</p>	<p>(1) 高大連携強化 ア 高大連携推進チームをと大学との意見交換会の活性化 イ 追手門学院大学の教学内容のアピールの機会を増やす。</p> <p>(2) 追手門学院小学校との連携強化 ア 小学校卒業生に関する情報交換。 イ 小学校の授業参観、小学校の教育内容の研究と、授業、クラブ活動等での交流。</p> <p>(3) 追手門学院中・高との連携強化 ア 教科・分掌の取り組み内容での交流 イ 人事異動・交流の活性化</p>	<p>(1) ア 月1回ペースでの会議開催 イ 内部進学者数</p> <p>(2) ア 学期に1回程度 イ 公開授業参加</p> <p>(3) ア 教科交流会の実施 イ 人事異動・交流の計画立案</p>	<p>(1) ・AP科目受講のシステムが安定した。 ・月1回のペースでの会議が開催できた。 ・内部併願の希望者数が増加した。</p> <p>(2) ・情報交換は、年度初めと中学入試前に2回実施。 ・公開授業参加 ・チアダンス・吹奏楽部における交流を実施した。 ・授業交流実施のための計画をスタートできた。</p> <p>・両中高で公開授業と合評会を実施し、教科交流が進んだ。 ・生徒募集面での情報交換と取り組み内容の共有ができた。 ・単年での計画はできたので、中期計画の立案を進め、さらなる活性化につなげる。</p>
---	--	--	---	--